

明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第7号

2020年4月

一 発 行

明石市連合まちづくり協議会

編集：広報部

連絡先：明石市コミュニティ生涯学習課

TEL (078) 918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン

まちづくり ゆめづくり

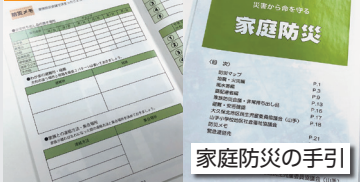
*各校区の取り組み事例については、H30 年度に実施した「明石市連合まちづくり協議会 防災懇談会事前アンケート」を元に記載しております。

学ぶ 啓発

防災マップ/冊子

減災に向けた取り組みとして、防災情報をまとめた冊子やマップづくりが広がっています。

山手



家庭防災の手引

和坂



防災マップの作成

防災に役立つ情報をまとめた冊子を作成。各家庭での防災会議で使えるワークシートも掲載。

プロジェクトチームを結成し、南海トラフ巨大地震を想定した防災マップを作成。

▶その他、防災マップや冊子を作成している校区
中崎、王子、林、鳥羽、花園、魚住、錦が丘、二見

▶その他、学びや啓発に関する取り組み

防災施設見学（兵庫県広域防災センター、津波防災教育センターなど防災施設への見学）：中崎、林、花園、貴崎、錦が丘

研修会（出前講座や大学教員等を招いた勉強会など）：中崎、明石、大観、王子、和坂、沢池、藤江、山手、谷八木、清水、錦が丘、二見

楽しく学ぶ/備える

防災に関心を持つ人の裾野を広げるために、楽しみながら学べる防災活動が増えています。

藤江



防災ゲーム研修会

防災をわかりやすく楽しく考えることをねらい、クロスロードゲームなどを使った研修会を開催。

錦が丘



錦が丘防災かるた

子どもを含め多世代にフレーズを公募した防災かるた。かるたの作成により、防災の入口と意識の啓発・交流の場に。

▶その他、防災ゲームを実施している校区

人丸、明石、王子、鳥羽、花園、山手、清水、二見北

訓練 実践

避難所開設

適切な役割分担や判断が求められる避難所開設。開設訓練や、住民同士の話し合いの場が増えています。

魚住



避難所開設訓練

校区防災組織で自主的に避難所開設運営を行うため色々な場面を想定して住民、自治会と連携して訓練をおこなう。

江井島



避難所開設訓練

身近な自治会館など、5ヶ所の避難所開設と運営を初体験。参加者自らが役割を担うなど各所の課題を検証し次年度に繋げる。

自治会の取り組み

各自治会でも様々な取り組みが始まっています。

太寺連合町内会



無事出すタオル

緊急時でも手に取りやすいタオルを表に出し無事を知らせる。自治会の役員が巡回し確認。

二見北小前自治会



命のカプセルの配布

救助者や救急隊員に持病や緊急連絡先を伝える「命のカプセル」を全戸配布。各家庭の冷蔵庫で保管。

連携・協働

関連団体とのスムーズな連携を目指して、合同訓練やノウハウの共有、体制の整理を行う事例が増えています。

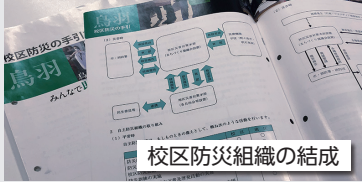
林



津波避難訓練

2年に1度、幼稚園・小学校と協働して川崎重工明石工場まで避難する訓練。

鳥羽



校区防災組織の結成

校区防災組織を結成し、災害時の指示系統や連携のあり方をまとめた、『校区防災の手引書』を発行。

中崎



単位自治会への出張訓練

まちづくり協議会の安心安全部会が単位自治会の防災訓練で出張訓練を実施。

テーマ 訓練

技能を磨くことに的を絞った訓練も増えています。

松が丘



市民救命士講習

防災訓練とは別途開催。緊急時に実践できるように、毎年1～3回実施、少人数で反復訓練。

▶その他、訓練・実践に関する取り組み

各自治会の防災資機材点検：中崎、明石、大観、和坂、鳥羽、花園、高丘西、大久保、谷八木、魚住、清水、錦が丘、二見北、二見、二見西

避難訓練：松が丘、人丸、中崎、明石、林、和坂、花園、高丘東、高丘西、大久保、江井島、魚住、錦が丘、二見北、二見

防災訓練：松が丘、朝霧、中崎、明石、大観、王子、林、和坂、鳥羽、花園、高丘東、高丘西、山手、大久保、大久保南、江井島、錦浦、清水、錦が丘、二見北、二見西

防災に関する相談窓口

明石市 総合安全対策室より

総合安全対策室では、地域での防災の取り組みへの支援として、地域ごとの災害リスクを考慮した出前講座や、校区で実施する防災訓練での市の備蓄物資展示やダンボールベッドの組立体験などを行っています。



備蓄物資展示・説明



ダンボールベッド組立

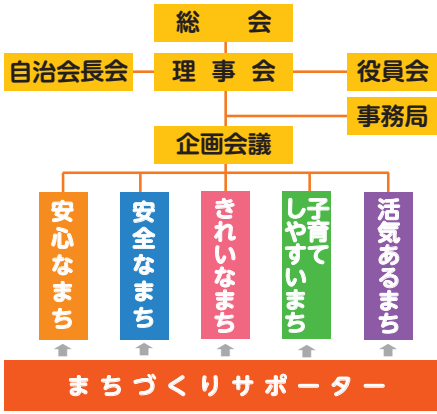
広報部会より
防災特集にあたって

今年は阪神・淡路大震災から25年が経ち震災の記憶が薄れる中、いかに被災地での教訓と課題を継承し、次なる災害に備えるかが問われる節目の年です。昨年も各地で大きな災害に見舞われました。また、近い将来には南海トラフ巨大地震の発生も予測されています。明石市も災害に強いまちづくりをさらに進めるために、本号では各校区での防災訓練や災害に備える活動を掲載し、共通認識を持ち情報交換ができればいいと思います企画しました。

明石市連合まちづくり協議会
広報部会

「楽しい」をつなぐ人づくり ―花園校区の取り組み―

▶ 花園まち協の組織体制



「西明石まつり」や子どもたちのための交流イベント「うきうきカーニバル」など、校区内の団体や住民と連携した事業が盛んな花園校区。

今回は、校区の活動の中心である花園校区まちづくり協議会（以下・花園まち協）の皆さんにお話を伺いました。

―自由な意見交換で決める企画会議―

「まちづくり計画書策定の過程で『1年任期が多い自治会長や、各種団体の長だけでは、継続的に事業を企画していくことは難しい』という声があった。そこで、役職関係なしにまち協に関わりたい人を募ることにした」と話すのは、花園まち協の会長池内勝さん。

この声かけに手を挙げた方々が現在5つのチーム（安心なまち、安全なまち、きれいなまち、子育てしやすいまち、活気あるまち）に分かれ活動しています。

明石市内の各小学校では、それぞれの地域の実情に合わせてまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、連合まちづくり協議会の広報部会が取材した先進的な活動を紹介しています。



▲企画会議の様子、この日は防災マップを検討中

そのなかで、各チームの代表者及び有志で構成されるのが、まち協事業の企画立案を担う「企画会議」です。メンバーは平均年齢が50代前半、女性が7割という構成。各チームから持ち寄った企画や相談を、出席者全員でブラッシュアップすることです。

「企画会議は自由に意見交換ができる会議。役員さんがいきなりNOと言うことはないし、まずは笑って受け止めてくれる。まずは発言してみようという空気があるから、楽しんで参加できている」と話すのは、きれいなまちチームのリーダー長田和美さん。

企画の持ち込みも受け入れています。昨年からは始まった市民ランナーと青パトが一緒に見守りパトロールを行う「ふれパト」は、ランニング好きの校区住民今井豊さんの提案で実現しました。今井さんは、この冬からは安全なまちチームのリーダーを務めています。

それでは、校区事業に携わる方は、どんなことをきつかけに加わっているのでしょうか？

―人材を循環・育成する仕組み―

元地域事務局員で活気ある



▲新調した青パトの出発式。まち協、防犯協会、ふれパト参加者を始め地域の皆さんで祝い。

「人材を循環・育成」の代表者及び有志で構成されるのが、まち協事業の企画立案を担う「企画会議」です。メンバーは平均年齢が50代前半、女性が7割という構成。各チームから持ち寄った企画や相談を、出席者全員でブラッシュアップすることです。

「企画会議は自由に意見交換ができる会議。役員さんがいきなりNOと言うことはないし、まずは笑って受け止めてくれる。まずは発言してみようという空気があるから、楽しんで参加できている」と話すのは、きれいなまちチームのリーダー長田和美さん。

「まちづくり計画書策定の過程で『1年任期が多い自治会長や、各種団体の長だけでは、継続的に事業を企画していくことは難しい』という声があった。そこで、役職関係なしにまち協に関わりたい人を募ることにした」と話すのは、花園まち協の会長池内勝さん。

この声かけに手を挙げた方々が現在5つのチーム（安心なまち、安全なまち、きれいなまち、子育てしやすいまち、活気あるまち）に分かれ活動しています。

「西明石まつり」や子どもたちのための交流イベント「うきうきカーニバル」など、校区内の団体や住民と連携した事業が盛んな花園校区。

今回は、校区の活動の中心である花園校区まちづくり協議会（以下・花園まち協）の皆さんにお話を伺いました。

「まちづくり計画書策定の過程で『1年任期が多い自治会長や、各種団体の長だけでは、継続的に事業を企画していくことは難しい』という声があった。そこで、役職関係なしにまち協に関わりたい人を募ることにした」と話すのは、花園まち協の会長池内勝さん。

この声かけに手を挙げた方々が現在5つのチーム（安心なまち、安全なまち、きれいなまち、子育てしやすいまち、活気あるまち）に分かれ活動しています。

明石市内の各小学校では、それぞれの地域の実情に合わせてまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、連合まちづくり協議会の広報部会が取材した先進的な活動を紹介しています。



▲「うきうきカーニバル」でスカットボールを楽しむボランティアグループと子どもたち

「まちづくり計画書策定の過程で『1年任期が多い自治会長や、各種団体の長だけでは、継続的に事業を企画していくことは難しい』という声があった。そこで、役職関係なしにまち協に関わりたい人を募ることにした」と話すのは、花園まち協の会長池内勝さん。

この声かけに手を挙げた方々が現在5つのチーム（安心なまち、安全なまち、きれいなまち、子育てしやすいまち、活気あるまち）に分かれ活動しています。

「西明石まつり」や子どもたちのための交流イベント「うきうきカーニバル」など、校区内の団体や住民と連携した事業が盛んな花園校区。

今回は、校区の活動の中心である花園校区まちづくり協議会（以下・花園まち協）の皆さんにお話を伺いました。

「まちづくり計画書策定の過程で『1年任期が多い自治会長や、各種団体の長だけでは、継続的に事業を企画していくことは難しい』という声があった。そこで、役職関係なしにまち協に関わりたい人を募ることにした」と話すのは、花園まち協の会長池内勝さん。

この声かけに手を挙げた方々が現在5つのチーム（安心なまち、安全なまち、きれいなまち、子育てしやすいまち、活気あるまち）に分かれ活動しています。

明石市内の各小学校では、それぞれの地域の実情に合わせてまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、連合まちづくり協議会の広報部会が取材した先進的な活動を紹介しています。

自治会部会より

自治会へ運営状況等アンケートを実施

自治会・町内会（以下、自治会等）の現状や課題を把握し、今後のまちづくり施策に役立てるため、明石市連合まちづくり協議会と明石市では、市内477自治会に対して令和2年1月にアンケートを実施しました。1月31日メット時点で、364自治会から回答をいただきました。（回答率76.31%）

今回のアンケートの目的は、前回の調査から5年が経過し、自治会等の運営状況等の変化を見ることが、自治会長の役割やそれに伴う負担等の実態をつかむことでした。

結果の一部を紹介します。“会長としての責任”や“校区組織との関係”と回答した自治会が半数近くにのぼります。一方で、良かったと思うことでは、7割が“地域の人と顔見知りになれた、つながりができた”と回答しています。

ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。今回のアンケート結果は、3月末に各自治会へ送付するとともに、明石市のホームページにも掲載します。



視察研修

―大阪市磯路地域活動協議会

令和2年1月31日、明石市連合まちづくり協議会は研修として大阪市港区磯路地域活動協議会（以下、磯路地活協）へ55人で視察にうかがいました。

会長の佐野さんから磯路地活協の防災や居場所づくりの取り組みをお聞きしました。会議は車座にして話しやすく、新しい人も発言しやすいようにフォローする、出席した方が必ず発言できるように工夫するなど、地活協の運営の具体的な内容もお聞きしました。広報は毎月発行していることや、充て職や兼務でなく「楽しそう」「面白そう」ということから担い手が広がるようにと様々な工夫が聞けました。

今回は、活動の説明にとどまらず、熱意にあふれる会長と書記の二人から様々な運営上の工夫を聞くことができ、今後に生かせる有意義な機会となりました。



▲地域の福祉情報をまとめた「やさしさマップ」、災害に備えて個人の緊急連絡先や既病歴も記入可能。



▲対応をいただいた、磯路地活協の会長の佐野さん(右)と書記の古島さん(左)